

テーマ別研究発表 | 生涯スポーツ研究部会：【課題B】学際的分野を有する生涯スポーツがもたらす社会貢献とは？

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[2a1106-09] 生涯スポーツ研究部会【課題B】口頭発表①

座長: 館 俊樹(静岡産業大学)

13:30 ~ 13:50

[生涯スポーツ-B-01]

部活動に対する生徒の主体性を育む場のデザイン（経）

*行實 鉄平¹、横山 剛士² (1. 久留米大学、2. 金沢大学)

13:50 ~ 14:10

[生涯スポーツ-B-02]

Dose-Response Relationships Between Environmental Fitness Support and Physical Activity
(発, 測)

Insights from a Large-Scale National Survey in China

*PAN XIANG^{1,2}、鈴木 宏哉²、Gao Yibo^{1,2}、Jiang Lupei^{1,2}、許 東海² (1. 中国国家体育総局体育科学研究所、2. 順天堂大学 スポーツ健康科学研究科)

14:10 ~ 14:30

[生涯スポーツ-B-03]

当事者の精神障害者サッカー競技参入および継続的な参加を促す要因の検討（ア）

*秋本 成晴¹ (1. 平成国際大学)

14:30 ~ 14:50

[生涯スポーツ-B-04]

スポーツサービスにおける価値共破壊（経）

車椅子ハンドボールクラブKnockü SCを事例として

*宇野 博武^{1,2}、岡田 美優³ (1. 武庫川女子大学、2. 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程、3. 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期過程)

テーマ別研究発表 | 生涯スポーツ研究部会：【課題B】学際的分野を有する生涯スポーツがもたらす社会貢献とは？

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[2a1106-09] 生涯スポーツ研究部会【課題B】口頭発表①

座長: 館 俊樹(静岡産業大学)

13:30 ~ 13:50

[生涯スポーツ-B-01] 部活動に対する生徒の主体性を育む場のデザイン (経)

*行實 鉄平¹、横山 剛士² (1. 久留米大学、2. 金沢大学)

少子化や教員の長時間労働、地域スポーツ環境の整備といった課題を背景に、2018(平成30)年にスポーツ庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定して以降、わが国では、部活動を学校単位から地域単位へと展開する政策が進められている。

本研究では、部活動改革(部活動の地域展開)という「多主体協働共生」(小泉,2014)が求められる取り組みの中で、大人達による環境構築ではなく、生徒達も「スポーツアクター」(山本,2024)として参画することを目指した地域(A中学校)での実践事例を踏まえて、その環境醸成に向けた現状と課題を提示することを目的とした。

具体的には、当該事例における実践「生徒との対話場(部活動ワークショップ)」の展開内容やその実践がもたらす生徒達への影響といった現状を把握するために参与観察調査およびアンケート調査を実施した。また、「学校組織開発理論」(佐古,2011)や「部活動と生徒の自主性・自律性・主体性」(下竹,2022;横山,2022;大畑ら,2020,2023)に関する先行研究に基づき、部活動ワークショップの展開内容や生徒達への影響を考察・評価することで課題の提示を試みた。

その結果、まず、部活動ワークショップは、当該地域の部活動改革検討委員会の協議を経て開発され、2024年度に3回実施されたプログラムは「教育活動の良循環サイクル(実態認識,課題生成,実践化)」(佐古・住田,2014)に基づき実施されていることが確認できた。次に、生徒達への影響は、同プログラムへの参加有無にかかわらず多くの生徒において部活動に対する自立性や主体性意識の醸成を確認することができた。一方で、当該地域の取組は、2024年度より3年間の構想で開始されたばかりであることから、その実践サイクルや生徒への影響を継続してモニタリングしていくことが望まれる。

テーマ別研究発表 | 生涯スポーツ研究部会：【課題B】学際的分野を有する生涯スポーツがもたらす社会貢献とは？

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 🏢 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[2a1106-09] 生涯スポーツ研究部会 【課題B】 口頭発表①

座長: 館 俊樹(静岡産業大学)

13:50 ~ 14:10

**[生涯スポーツ-B-02] Dose-Response Relationships Between Environmental Fitness Support and Physical Activity (発,測)
Insights from a Large-Scale National Survey in China**

*PAN XIANG^{1,2}、鈴木 宏哉²、Gao Yibo^{1,2}、Jiang Lupei^{1,2}、許 東海² (1. 中国国家体育総局体育科学研究所、2. 順天堂大学 スポーツ健康科学研究科)

Objective: To explore Environmental Fitness Support (EFS) associations with physical activity (PA) intensity and dose-response patterns.

Methods: Data included 58,844 adults (China National Fitness Survey 2020); PA measured by International PA Questionnaire, using regression and generalized additive models.

Results: EFS negatively associated with MVPA at low scores, positively above 35.06. Facility support ($\beta=0.15$, $p<0.01$) and aesthetics ($\beta=0.05$, $p=0.02$) positively correlated to vigorous PA; traffic hazards negatively ($\beta=-0.13$, $p<0.01$). Moderate PA positively linked to facility support ($\beta=0.42$, $p<0.01$), aesthetics ($\beta=0.63$, $p<0.01$), traffic safety ($\beta=0.24$, $p<0.01$); accessibility negatively ($\beta=-0.07$, $p=0.01$).

Conclusions: Enhancing EFS supports population PA in a variety of ways.

テーマ別研究発表 | 生涯スポーツ研究部会：【課題B】学際的分野を有する生涯スポーツがもたらす社会貢献とは？

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[2a1106-09] 生涯スポーツ研究部会【課題B】口頭発表①

座長: 館 俊樹(静岡産業大学)

14:10 ~ 14:30

[生涯スポーツ-B-03] 当事者の精神障害者サッカー競技参入および継続的な参加を促す要因の検討（ア）

*秋本 成晴¹ (1. 平成国際大学)

東京パラリンピックや東京デフリンピックを初め、近年障害者スポーツへの注目が集まっている。障害者にとってスポーツは多様な効用をもたらすが、精神障害（e.g. 統合失調症, うつ病）のある者にとってスポーツ活動は、気分の高揚や不安の改善といった運動療法的効果が見込めるだけでなく、スポーツを通じて当事者同士の交流が促され、人間関係や体調管理、就労に関して互いに学び合うことで、日常生活全体の質の向上が見込める点でも期待が高まっている。ところが、国内での精神障害者スポーツの振興状況は、他の2障害（身体障害・知的障害）と比べて大幅に遅れているため、当事者の精神障害者スポーツ参入や、継続的な参加を阻んでいる要因について明らかにしていくことが喫緊の課題となっている。

そこで本研究では、精神障害者スポーツの中でも最も人気のあるソーシャルフットボール（以下、「SF」）に注目し、当事者の精神障害者スポーツ参入や継続的な参加を促進・阻害している要因を明らかにすることを目的とした。そこで本研究では、トップ選手とグラスルーツの両方の選手が所属するチームAの11名の選手を対象にインタビュー調査を行った。

調査の結果、SFに関わる以前に、自分以外の精神障害者との何らかの接点があった者は、SF参入における心理的障壁が下がっていることが明らかになったほか、参入後にチーム内で役割が与えられることが当事者の当該スポーツの継続を容易にしていることが示された。一方で、近年のSF競技の高度化に伴い、グラスルーツ層が試合等で活躍できる場面が減っており、結果的に継続を阻害する要因となっていることも指摘された。同様に、競技の高度化に伴い、練習の強度が上がっていることや、練習の事前準備への負担が増えており、結果的に病状の悪化並びにSF継続を困難にしているケースも示された。

テーマ別研究発表 | 生涯スポーツ研究部会：【課題B】学際的分野を有する生涯スポーツがもたらす社会貢献とは？

📅 2025年8月28日(木) 13:30 ~ 14:50 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[2a1106-09] 生涯スポーツ研究部会【課題B】口頭発表①

座長: 館 俊樹(静岡産業大学)

14:30 ~ 14:50

[生涯スポーツ-B-04] スポーツサービスにおける価値共破壊（経） 車椅子ハンドボールクラブKnockü SCを事例として

*宇野 博武^{1,2}、岡田 美優³ (1. 武庫川女子大学、2. 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程、3. 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期過程)

顧客が価値創造プロセスに大きく関与するスポーツサービスでは、不確実性への柔軟な対応が重要と指摘されてきた（宇野・山口，2025）。ところが、先行研究では、柔軟性の発揮が却ってネガティブな事業パフォーマンスをもたらす可能性が示唆されている（Arias-Aranda，2003）。本研究の目的は、サービス・マーケティング分野における価値共破壊研究を参照しながら、スポーツサービスをめぐるどのような相互作用が諸アクターのウェルビーイングの低下をもたらすのか、あるいはウェルビーイングの低下がどのように経験されるのかについて理解を深めることである。

価値共破壊（Value Co-Destruction）とは「サービスシステム間の相互作用プロセスであり、その結果、少なくとも一方のシステムのウェルビーイングが低下するもの」（Plé and Chumpitaz Cáceres，2010，p.431）と定義される。ウェルビーイングの低下は、イルビーイング（ill-being）の概念とともに、個人的または集団的に経験される物質的・身体的・心理的・社会的な害として論じられてきた（Gummerus et al.，2024）。なお、価値共破壊は、資源の意図的もしくは偶発的な誤用（misuse）によって生じるとされる。

以上を感受概念として本研究では、車椅子ハンドボールクラブKnockü SCを対象とした事例研究を行う。Knockü SCは、エリアサービス（体育館利用）において、「身体障害者用駐車場に荷物が置かれている」などの価値共破壊的なプロセスを経験してきた。方法論的には構成主義的グラウンデッド・セオリー（constructivist grounded theory）に依拠し（シャーマズ，2020）、「研究者の持ち込む観念からこぼれ落ちる、生きられた世界の場」（松嶋ほか，2015，p.47）へと接近することを試みる。